

[建設] 課 経 営 計 画 書 (総 括 表)

■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	H31 年度計画額 (単位 : 千円)		H31 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	臨時職員
1	土地改良事業	B	74,079	20,941	0.4	0.0
2	道路整備事業	B	140,158	15,000	0.4	0.7
3	橋りょう維持管理事業	B	91,476	17,435	0.3	0.0
4	地方道路等整備事業	A	209,566	118,000	1.1	0.5
5	都市防災総合推進事業	A	215,330	200,000	0.4	0.0
6	河川排水路整備事業	B	78,500	25,000	0.4	0.0
7	街路整備事業	A	47,383	20,061	0.2	0.3
8	公共下水道運営管理事業	B	302,458	250,380	1.5	0.3
9	公共下水道整備事業	A	429,111	318,600	1.8	0.0
10	農業集落家庭排水事業	A	21,285	12,001	0.5	0.2
合 計			1,609,346	997,418	7.0	2.0

■特記事項

--

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課		No.	01
事業名	土地改良事業			
総合計画の体系	基本目標	5	未来へと引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する	
	基本施策	(2)	産業・経済	
目的	農業経営の合理化を図るため、用排水路の計画的な維持管理を行う。			
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化の進んだ土地改良施設の更新を行い、農業労力の軽減、農業用車両の安全確保及び、用排水路の通水不良の改善等、農業経営の合理化を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・道路、河川及び橋りょう工事を含め合理的に整備ができるように計画的な改修及び修繕。 ・用排水路改修の調査検討 	
現在における経過又は課題	<p>○施設の老朽化が進み、要修繕箇所が増大している。営農に支障をきたす箇所においては緊急的に修繕をする必要があるが、広域的段階的に改修を進めていくには、財政的にも将来の土地利用状況を想定しても困難状況である。平成 28 年度に土地改良施設の再整備に向け県営土地改良事業として整備できるよう、基礎調査及び計画策定を行った。平成 29 年度に県営事業での採択を行うことで調整をした結果、農地転用条件等から採択を見送ったが、平成 30 年度に団体営事業として排水路整備着手に向けて採択申請を行った。</p> <p>○県営土地改良事業（合瀬川地区）により荒井堰掛りのパイプラインが完成し、供用開始にむけて平成 28 年度パイプラインの試験運用を行ったが、水量の配分等に問題が生じた事などから、事業期間を 1 年延長し調整することとなった。平成 30 年度には、パイプラインにより通年で灌漑を実施した結果、支障なく営農ができるようになった。今後、パイプラインの財産や管理について、管理者を決める必要が生じている。</p>			
平成 31 年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○県費補助を活用し整備効果が上がるよう、計画的かつ合理的に整備していく。 ○老朽化した排水路等の改修を計画的に整備できるよう着手する。 ○合瀬川パイプラインの管理者について、関係団体及び関係部署との調整を図る。 			

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 ～ 7	合瀬川パイプライン用水管理
9	団体営事業の認可申請
11	単独土地改良事業の認可申請
～ 3	認可（予定） 認可を受けた施設の改修工事の発注 完了

□3年間の目標

目標							
	項目（単位）	H29 計画	H29 実績	H30 計画	H31 目標	H32 目標	H33 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H32	
H33	

■事業コスト

		単位	H29 年度決算額	H30 年度当初予算額	H31 年度計画額
事業費		千円	51,879	52,644	74,079
(内特定財源)		千円	3,000	9,270	20,941
人工	職員	人	0.40	0.60	0.40
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00
	計	人	0.40	0.60	0.40

■平成 31 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
単独土地改良事業費補助金	1,740	工事請負費
農山村地域整備交付金	15,000	委託料
農村振興総合整備事業費補助金	4,200	委託料
合計	20,940	

■平成 31 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
13	排水路、農道整備詳細設計委託料	30,000	30,000	土地改良施設の更新改良事業に向けた測量設計

■特記事項

維持管理費の増加を抑制し、施設を長持ちさせるため、予防保全(計画的にメンテナンスを行うこと)を目指し、補助金等を効果的に活用し施設の延命を図る。

■目標又は改善策に対する取組内容

- ・県費補助を活用し、吹野地区（農業用水路改修）を行った。
- ・老朽化した排水路等の改修を計画的に整備を進めるため、農山村地域整備交付金（国）及び農村振興総合整備事業費補助金（県）を受け、排水路改修の調査設計を行った。
- ・合瀬川パイプラインの管理者については、愛知県担当部局との協議を行った。

■評価

- ・農業用水路（吹野地区）を改修したことで、水管理の省力化を図ることができた。また、排水路の再整備に向けた調査設計（一部）が完了し、次年度以降の工事着手することができるようになった。
- ・合瀬川パイプラインについては、協議を継続しているものの管理者の決定には至っていない。今後、引き続き事業に支障がないよう運用に努めていく。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課		No.	02
事業名	道路整備事業			
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する	
	基本施策	(2)	生活基盤	
目的	道路の改良により、安全で安心な生活環境を確保する。			
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道路計画の策定 ・道路用地の購入 ・道路拡幅、改良工事の設計 ・道路拡幅、改良工事の施工 		<ul style="list-style-type: none"> ・主要道路の舗装修繕の実施 	
現在における経過又は課題	<p>○平成 25 年度より主要道路の舗装修繕を 5 か年計画で実施してきたが、交付金の割り当て減少等の理由から、計画を 1 年延長しうえて、完了に目途が立ってきたことから、平成 30 年度に主要路線に対して新たな舗装修繕計画を策定した。今後、新たな舗装修繕については、優先順位を定めたいうえて、計画の実施を図る。</p> <p>○幅員 4 m 未満の狭小道路の整備においては、町内の各地区で整備を行ってきている。</p> <p>○交通量が多く歩行者の安全確保が必要な路線であっても、歩道が設置されていない路線があるため、歩道設置工事を行う必要がある。</p> <p>○国道 4 1 号が 6 車線化され、また、新たに外坪 5 丁目交差点が新設されたことで、町道内津々線の需要が高まることから、県道宮後小牧線への接続を検討する必要性が生じている。</p>			
平成 31 年度の目標又は改善策	<p>○地権者の用地買収同意が得られた狭小道路について、用地買収を進め 4 m 以上の道路幅員が確保できるようにする。</p> <p>○区要望との整合性を図りながら、中期的な歩道整備等道路整備計画の策定を行い、整備順位と予算確保を行い、安全な生活環境の整備を図る。</p> <p>○交付金の減少などから、現在の長期的な主要町道舗装修繕計画の見直しを行い、緊急度が高いなどの優先順位を定め修繕を実施（交付金事業）する。また、交付金事業で対応できない路線について、効果的な工法を採用することにより、経費の削減を図る。</p> <p>○町道内津々線の延伸計画を具体化させ、関係機関との計画協議を進める。</p>			

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路用地の購入 ・ 道路改良工事の設計、施工（用地、用水時期等条件の整ったものから） 町道下小口 87 号線（用地交渉）
5 月	・ 舗装修繕工事、町道内津々線予備設計業務
9 月	・ 町道上小口 47 号線改良工事
10 月	・ 大屋敷 62 号線歩道整備工事

□3 年間の目標

目 標							
	項 目（単位）	H29 計画	H29 実績	H30 計画	H31 目標	H32 目標	H33 目標

□2 年後、3 年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H32 年度	
H33 年度	

■事業コスト

		単位	H29 年度決算額	H30 年度当初予算額	H31 年度計画額
事業費		千円	109,263	128,828	140,158
(内特定財源)		千円	6,423	18,702	15,000
人工	職員	人工	1.00	0.40	0.4
	臨時職員	人工	0.20	0.70	0.7
	計	人工	1.20	1.10	1.1

■平成 31 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
舗装修繕事業費補助金	15,000	道路改良工事費
明日のまちづくり基金		道路改良工事費
合計	15,000	

■平成 31 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
13	予備設計委託料	11,462	11,462	町道内津々線延長計画立案のため
13	道路修繕計画策定委託料	0	△16,546	既計画の完了に伴う新たな修繕計画策定完了

■特記事項

--

■目標又は改善策に対する取組内容

- ・地権者の用地買収同意が得られた狭小道路について、用地買収を進め4 m以上の道路幅員が確保できるよう2路線（町道豊田50号線、町道下小口87号線）に着手した。
- ・舗装については、舗装修繕計画に基づき町道役場柏森線を行った。
- ・町道内津々線の延伸計画については、県道若宮江南線との交差点協議と町道役場南線交差点において、公安委員会との調整に着手した。

■評価

- ・狭あい道路の解消により、緊急車両の進入ができるようになり、地域内の防災安全性が向上した。
- ・車両の大型化や交通量の増加による舗装の劣化に対し、修繕を行った結果、わだちの解消や騒音振動が改善され、沿線の環境改善が図れた。
- ・町道内津々線延伸にあたっては、地元調整、県道管理者や公安委員会協議に課題が残っている。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	03
事業名	橋りょう維持管理事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	(2)	生活基盤
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、橋りょうの長寿命化を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 橋りょうの長寿命化修繕計画の策定 ・ 橋りょうの修繕工事の設計 ・ 橋りょうの修繕工事の施工 ・ 橋りょうの維持管理 		
現在における経過又は課題	<p>○既存の管理橋りょうの多くは高度経済成長期に建設され、老朽化が進行している。道路法の改正により、これらの橋りょうについて適切な維持管理のもと長寿命化を図ることが義務付けられたことから、平成 22. 23 年度に橋長 15m 以上の橋りょう及び 1・2 級町道及び緊急輸送道路にかかる橋長 2m 以上の橋について全体 86 橋のうち 37 橋の現状把握と橋りょう点検を行った。平成 24 年度には、この点検結果を用い、橋りょう長寿命化修繕計画を策定した。また、平成 29 年度には、橋長 15m 未満の 49 橋中、24 橋の点検を実施し、平成 30 年度に残りの 25 橋の調査を行った。今後、修繕計画の策定を行い、工事の実施が必要となっている。</p> <p>○10 年間の修繕計画では、予算の平準化した金額を計上しているが、点検は 5 年ごとに行うこととなっており、予算の確保について留意する必要がある。</p> <p>○修繕工事については、平成 24 年度に作成した修繕計画（10 年間で 24 橋）に基づき、平成 26 年度から交付金事業として修繕（H26 4 橋、H27 2 橋、H28 4 橋、H29 2 橋、H30 3 橋）をしたが、橋りょうの老朽化が想定以上に進んでいるものもあり、実施事業費が当初の予定よりも嵩んできている。</p>		
平成 31 年度の目標又は改善策	<p>○町が管理する橋りょうの点検が終了したことから、修繕計画の見直しを行い、老朽化や損傷の著しく緊急度の高いものから修繕工事の施工を検討する。</p> <p>○昨年度に引き続き、点検済橋りょう（新田橋、大師橋、河北橋、天神塚橋、矢戸小橋 合計 5 橋）の修繕工事を施工する。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
10 ~3	修繕対象橋りょうの修繕工事

□3年間の目標

目標							
	項目（単位）	H29 計画	H29 実績	H30 計画	H31 目標	H32 目標	H33 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H32 年度	
H33 年度	

■事業コスト

		単位	H29 年度決算額	H30 年度当初予算額	H31 年度計画額
事業費		千円	30,354	61,508	91,476
(内特定財源)		千円	8,140	6,600	17,435
人工	職員	人工	0.30	0.30	0.30
	臨時職員	人工	0.20	0.00	0.00
	計	人工	0.50	0.30	0.30

■平成 31 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
橋りょう修繕事業費補助金	17,435	橋りょう維持管理事業
合計	17,435	

■平成 31 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 町が管理する橋りょうの点検が終了したことから、修繕計画の見直しを行い、新たな橋りょう長寿命化計画の策定を行った。
- ・ 国の交付金を受け、橋りょう（新田橋、大師橋、河北橋、天神塚橋、矢戸小橋 合計 5 橋）の修繕工事を実施した。

■ 評価

- ・ 橋りょう長寿命化計画の策定により、今後の修繕にかかる費用負担の平準化を図り、計画的な修繕に取り組む準備ができた。
- ・ 橋りょう（新田橋、大師橋、河北橋、天神塚橋、矢戸小橋）5 橋の修繕が完了したことで、安全度を保つことができるようになり、重大事故の未然防止を図ることができた。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課		No. 04
事業名	地方道路等整備事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	(2)	生活基盤
目的	道路の改良により、安全で安心な生活環境を確保する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道路計画の策定 ・道路用地の購入 ・道路拡幅、改良工事の設計 ・道路拡幅、改良工事の施工 		
現在における経過又は課題	<p>○平成 30 年度に国道 4 1 号 6 車線化に伴い外坪 5 丁目交差点が供用を開始したことで、国道へ接続する町道内津々線の安全確保が必要となっている。このため、歩道設置に必要な用地確保（秋田地内）を平成 30 年度に完了したころから、引き続き歩道整備工事を行う。</p> <p>○町道布袋小牧線については、沿線の住民の同意が得られたことから、工事に着手するため平成 28 年度に用地測量、詳細設計を実施した。平成 29 年度から拡幅への影響範囲の支障物件の移転補償等の交渉を行い、用地買収が完了した。また、一部工事にも着手し、早期の完了を目指す。</p> <p>○平成 28 年度に将来の土地利用や交通需要などとの整合を図るため、道路規格の変更や土地利用計画の見直しなど道路計画において見直しを行った。道路整備においては、優先順位をつけ計画的な整備に取り組んでいる。</p> <p>○農道等の法面（土羽）を擁壁とすることで、道路幅員の確保と維持管理費の軽減及び耐震性に向けて整備個所の選定を行い、平成 27 年度から工事に着手してきた。交通量が多く危険性が高い路線を選定し、整備する必要がある。</p>		
平成 31 年度の目標又は改善策	<p>○国道 41 号外坪 5 丁目交差点の供用開始に伴い交通量の増加が見込まれる町道内津々線（秋田地内）の安全対策工事（歩道設置）を完了する。</p> <p>○町道布袋小牧線が早期に完了できるように、工事を発注する。</p> <p>○交通量が多く危険性が高い町道秋田 21 号線及び豊田 22 号線の改良事業（用地取得）を進める。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路用地の購入 ・ 道路改良工事の設計、施工 町道内津々線改良工事（歩道設置） 町道布袋小牧線改良工事（継続） 町道秋田 21 号線改良工事（継続・用地取得） 町道豊田 22 号線改良工事（継続・用地取得）

□3 年間の目標

目標							
	項目（単位）	H29 計画	H29 実績	H30 計画	H31 目標	H32 目標	H33 目標

□2 年後、3 年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等

■事業コスト

		単位	H29 年度決算額	H30 年度当初予算額	H31 年度計画額
事業費		千円	218,380	335,727	209,566
(内特定財源)		千円		256,149	118,000
人工	職員	人工	0.4	0.4	1.1
	臨時職員	人工	0.3	0.3	0.5
	計	人工	0.7	0.7	1.6

■平成 31 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
地方道路等整備事業債	100,000	工事請負費他
道路改良費補助金	18,000	工事請負費
明日のまちづくり基金		工事請負費他
合計	118,000	

■平成 31 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

--

■目標又は改善策に対する取組内容

- ・町道内津々線（秋田地内）の安全対策工事（歩道設置）については、平成 30 年度から県費補助を受け工事に着手し、平成 31 年度に完了した。
- ・町道布袋小牧線については、平成 29 年度に工事着手し、平成 31 年度に完了した。
- ・交通量が多く危険性が高い町道秋田 21 号線及び豊田 22 号線の改良事業については、平成 31 年度に工事着手を予定していることから、早期の用地取得に努めた。

■評価

- ・町道内津々線（秋田地内）については、歩道設置が完成したことや、道路線形を改善したことから、交通の安全性が向上した。
- ・町道布袋小牧線に歩道設置が完了し、車道幅員（W=5.0m）を確保したことで、緊急車両の進入が容易になったことや、車両通過による歩行者の安全確保が図れ、地域の安全性が向上した。
- ・町道秋田 21 号線については、用地取得が完了し、一部工事に着手した。また、町道豊田 22 号線についても、用地取得が完了し道路改良工事に先行して行われる農業用水管の入れ替え工事に着手されたことで、令和 2 年度改良工事の着手の目途ができた。

事業別経営計画書【A】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	05
事業名	都市防災総合推進事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	(2)	生活基盤
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、橋りょうの架け替え、拡幅、歩道設置等を図る。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・避難路及び緊急輸送道路の整備 		
現在における経過又は課題	<p>○南海トラフ巨大地震等の災害時に備えた避難路や緊急輸送道路の整備が、急務となっている。都市防災総合交付金を活用することで、早期に整備を行い、町民の方が安全に避難できるようにする。</p>		
平成31年度の目標又は改善策	<p>○避難路として、町道秋田21号線、町道豊田22号線及び上小口71号線の整備を行う。</p> <p>○町道野合線のボトルネックとなっている、柿野橋の架け替え工事に着手する。</p> <p>○仲沖地区、二ツ屋地区の避難路として歩道が設置されていない町道野合線の歩道整備を行う。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 ～ 7	用地交渉（町道秋田 21 号線、町道豊田 22 号線、町道野合線） 町道豊田 22 号線、町道上小口 71 号線 測量設計着手
9 ～	町道秋田 21 号線 工事着手 柿野橋（下部工）工事着手

□3 年間の目標

項目（単位）	H29 計画	H29 実績	H30 計画	H31 目標	H32 目標	H33 目標
避難路・緊急輸送道路整備			設計 柿野橋	工事 柿野橋	工事 柿野橋	
町道上小口 71 号線				測量	工事	工事
町道豊田 22 号線				用地・測量	工事	工事
町道秋田 21 号線				用地・工事	工事	

□2 年後、3 年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H32 年度	・ 柿野橋の架け替え工事（上部工）に着手する。 ・ 避難路・緊急輸送道路の整備（町道秋田 21 号線、町道豊田 22 号線、町道上小口 71 号線他）
H33 年度	・ 避難路・緊急輸送道路の整備（町道秋田 21 号線、町道豊田 22 号線、町道上小口 71 号線他）

■事業コスト

		単位	H29 年度決算額	H30 年度当初予算額	H31 年度計画額
事業費		千円	0	0	215,330
(内特定財源)		千円	0	0	200,000
人工	職員	0.20	0.0	0.30	0.40
	臨時職員	0.00	0.0	0.10	0.00
	計	0.20	0.0	0.40	0.40

■平成 31 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
都市防災総合推進事業補助金	100,000	用地・委託・工事
地方道路等整備事業債	100,000	用地・委託・工事
合計	200,000	

■平成 31 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
13	測量設計委託料	30,382	皆増	町道豊田 22 号線、町道上小口 71 号線設計委託料
15	工事請負費	158,936	皆増	柿野橋架け替え工事(下部工)、町道秋田 21 号線
17	道路用地購入費	26,012	皆増	町道豊田 22 号線用地

■特記事項

--

■目標又は改善策に対する取組内容

- ・避難路に指定されている町道秋田 21 号線、町道豊田 22 号線及び上小口 71 号線の整備を行うため、事業に着手した。町道秋田 21 号線については一部工事に着手し、町道豊田 22 号線については、用地取得（1 期）が完了した。また、町道上小口 71 号線については、測量設計を行った。
- ・町道野合線のボトルネックとなっている柿野橋の架け替え工事については、今年度に橋りょう下部工の工事が完了した。
- ・仲沖地区、二ツ屋地区の避難路として歩道が設置されていない町道野合線の歩道整備については、今年度に国道 41 号の西側及び東側において用地測量を行った。西側においては、地権者との用地交渉を行った。

■評価

- ・町道秋田 21 号線及び豊田 22 号線については計画通りの事業着手ができたことで、早期の完成を見込むことができた。
- ・柿野橋架け替え工事（下部工）が完了したことにより、早期の完了を見込むことができた。
- ・町道野合線については、安全な道路環境の整備のため歩道設置に向けた事業に着手できた。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	06
事業名	河川排水路整備事業		
総合計画の体系	基本目標	5	未来へ引き継ぐ環境保全とまちの活力を創造する
	基本施策	(1)	環境保全
目的	安全で安心した生活環境を維持するため、河川排水路施設の整備を図る。		
事務内容	・ 河川排水路の改良工事の設計 ・ 河川排水路の改良工事の施工		
現在における経過又は課題	○現在の排水路施設は、土地改良事業により築造された施設が多く、豪雨時の流下能力が不足する水路が多くある。また、老朽化した組み立て水路においては、破損している箇所もあり、早期の改修工事が必要となっている。平成 31 年度から土地改良事業として、排水路の再整備に着手する。 ○近年の集中豪雨によって、接続する河川の改修がされていないことから、流下能力が不足している。そのため、内水氾濫による浸水被害が発生する危険性が出ているため、河川排水路の改修と合わせて調整池の整備も必要となっている。		
平成 31 年度の目標又は改善策	○団体営土地改良事業により、主要排水路の改修に着手（平成 31 年度は、調査設計）する。 ○昨年度に引き続き、新宮地区に排水路改修と合わせ、雨水貯留施設の設置を行う。		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	県費 計画協議（雨水貯留施設）
6	排水路改修及び貯留施設工事発注
7	地元説明会

□3年間の目標

目標							
	項目（単位）	H29 計画	H29 実績	H30 計画	H31 目標	H32 目標	H33 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等

■事業コスト

		単位	H29 年度決算額	H30 年度当初予算額	H31 年度計画額
事業費		千円	210	121,108	78,500
(内特定財源)		千円		65,707	25,000
人工	職員	人工	0.4	0.4	0.4
	臨時職員	人工	0	0	0
	計	人工	0.4	0.4	0.4

■平成 31 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
県補助金(河川改良費補助金)	25,000	工事請負費
合計	25,000	

■平成 31 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

--

■目標又は改善策に対する取組内容

- ・老朽化した排水路を再整備するため団体営土地改良事業により、主要排水路の改修事業に着手した。今年度は、排水路改修の調査測量設計を行った。
- ・内水氾濫による浸水被害を軽減するため、新宮地区に排水路改修と合わせ、雨水貯留施設の設置を行った。

■評価

- ・老朽化した排水路の改修を行うことで、流下能力の拡大と維持管理の省力化が図れる。
- ・新宮地区に雨水貯留施設（300㎡）を築造したことと、排水路の断面を大きくしたことで、流下能力の向上と一時的な流量調整ができることになり、地域の治水安全度が向上した。

事業別経営計画書【A】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課		No. 07
事業名	街路整備事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	(2)	生活基盤
目的	<p>国道41号や国道155号（北尾張中央道）といった広域幹線道路へのアクセスを強化し、集落内の通過交通を排除するため、町内の円滑な道路交通ネットワークの実現に向けて都市計画道路愛岐南北線及び江南大口線、町道役場前線、小口線等の整備を推進する。</p>		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町道小口線並びに役場前線等に関する道路整備に係る事業 ・ 都市計画道路愛岐南北線、江南大口線等の用地取得事務 		
現在における経過又は課題	<p>○町道小口線並びに役場前線については、現在の未整備区間が、小口線＝918m（県道小口岩倉線～町道大口桃花台線）、役場前線＝276m（役場以東～小口線との交差点）あるが、この路線の早期整備に向け、五条川右岸（小口線の県道小口岩倉～樋田橋間（480m）＋役場前線（280m））を先行して着手していくために、地権者の理解を得ながら、用地を確保する必要がある。現在までに、町道役場前線の用地買収が完了し、町道小口線の約50%の用地買収が完了した。</p>		
平成31年度の目標又は改善策	<p>○地元地権者等への理解を図り、引き続き土地取得特別会計において、用地の先行取得に努める。また、先行取得を行った用地の適正な管理を行うとともに、町道役場前線の先行整備を計画的に行う。</p> <p>○町道役場前線の整備工事の実施。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
4～ ～3	役場前線整備工事 H31・・・ 用地交渉 税務署事前協議 契約締結 前払金の支払 繰越し手続き 登記、土地の引渡し 完了払い

□3年間の目標

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・この道路の必要性を地権者等にご理解していただき、事業に係る用地についての同意を得る。 ・道路整備工事の実施設計 					
項 目（単位）	H29 計画	H29 実績	H30 計画	H31 目標	H32 目標	H33 目標
関係地権者累計（30） 用地取得（パーセント）	37	37	50	77	100	100
町道小口線（22）	14	14	30	70	100	100
町道役場前線（8）	100	100				
実施設計・工事 （役場前線）		工事	休工	工事	工事	工事

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H32 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・用地交渉（小口線） ・工事（役場前線）
H33 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・工事（役場前線・小口線）

■事業コスト

		単位	H29 年度決算額	H30 年度当初予算額	H31 年度計画額
事業費		千円	612	74,491	47,383
(内特定財源)		千円	0	46,903	20,061
人工	職員	人工	1.6	0.2	0.2
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.3
	計	人工	1.7	0.3	0.5

■平成 31 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
行政財産目的外使用料	1	街路整備事業
交通安全対策事業補助金	20,000	工事請負費
用地取得交渉損失補償調印	60	街路整備事業
合計	20,061	

■平成 31 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

①

■目標又は改善策に対する取組内容

- ・町道小口線整備に向けて、地元地権者等への理解を図るため戸別訪問を行い、用地交渉を行った。
- ・町道役場前線の整備工事に着手できるよう、予算の獲得に要望活動を行った。また、一部工事に着手した。

■評価

- ・町道小口線用地については、約99%の先行取得ができたことから、工事着手の目途ができた。
- ・町道役場前線整備については、一部工事に着手し、令和2年度道路整備予算（交付金）の確保ができた。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	08
事業名	公共下水道運営・施設管理事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	(2)	生活基盤
目的	公衆衛生の向上に寄与し、併せて公共用水域の水質保全に資するために、下水道の円滑な運営を行うため、整備した下水道の有効利用並びに適切な維持管理を行う。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・管路施設維持管理 ・使用料徴収 ・地方公営企業決算状況調書作成 		<ul style="list-style-type: none"> ・消費税申告 ・工事・供用開始説明会の開催
現在における経過又は課題	<p>○平成 31 年 4 月 1 日現在の大口町における下水道普及率は、87.2%、水洗化率は、79.5%で、それぞれの数値を向上させる必要があり、特に水洗化については、広報周知、ダイレクトメール等により、未接続者への理解を求めていく必要がある。</p> <p>○平成 26 年度に農業集落排水施設の公共下水道への編入にかかる、国及び愛知県の事前同意が得られ、平成 32 年 4 月編入に向けたスケジュールを策定したが、そのスケジュールに沿った法手続きが、平成 29 年度に完了し、平成 31 年度末までに流域下水道幹線への接続する必要がある。</p> <p>○地下水位が高い時期に不明水が増加するため対策が必要である。</p> <p>○下水道事業における経理内容の明確化、透明性の向上を図るため、人口 3 万人以上の団体は平成 32 年 4 月までに公営企業会計への移行が義務付けされた。大口町のような人口 3 万人未満の団体についてもできるだけ移行する旨の国の指導があるため、制度を理解するとともに移行時期を検討する必要がある。</p> <p>○国から下水道整備については今後 6 年での概成が求められるなか、適正な下水道事業の継続を実現するために、平成 30 年度にストックマネジメント計画の策定を行った。今後は、計画に基づく点検と修繕を行うことで、施設の長寿命化を図る。</p>		
平成 31 年度の目標又は改善策	<p>○水洗化率向上のため、広報での周知、ふれあいまつりでの啓発活動を行い、未接続者に早期接続を促す。</p> <p>○不明水対策として調査、修繕工事を行う。</p> <p>○企業会計への移行に向け、積極的に研修会等に参加し会計制度の理解を深めることと、資産台帳整理を行う。</p> <p>○ストックマネジメント計画に基づくマンホール調査を実施する。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
5	不明水調査発注
6	不明水箇所修繕工事発注 地方公営企業決算状況調査作成 マンホール調査
9	消費税申告
11	ふれあいまつりにおいて接続啓発
奇数月	偶数月1日に使用料請求を行うためのデータ入力
毎月	特定事業所排水の水質検査
随時	企業会計研修会への参加

□3年間の目標

項目（単位）	H29 計画	H29 実績	H30 計画	H31 目標	H32 目標	H33 目標
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H32 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H33 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H29 年度決算額	H30 年度当初予算額	H31 年度計画額
事業費		千円	254,373	286,698	302,458
(内特定財源)		千円		241,947	250,380
人工	職員	人工	1.4	0.8	1.5
	臨時職員	人工	0.1	0.3	0.3
	計	人工	1.5	1.1	1.8

■平成 31 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
下水道使用料	240,000	下水道使用料徴収業務委託料 流域下水道維持管理費負担金
汚水処理委託料	380	
社会資本整備交付金	10,000	委託料
合計	250,380	

■平成 31 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
マンホール調査	23,000	23,000	ストックマネジメント計画に基づく調査
ストックマネジメント計画支援	2,750	2,750	ストックマネジメント計画に基づく調査委託支援

■特記事項

現在異常通報で使用している無線機は、電波の割り当て改正により使用できなくなるため今回の更新が最終となり、平成 32 年度までに機器の更新が必要になる。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・水洗化率向上のため、広報での周知、ふれあいまつりでの啓発活動を行った。未接続者へは戸別訪問を行い、早期接続のPRを行った。
- ・不明水調査については、ストックマネジメント計画と併せてマンホール調査を行った。
- ・公営企業法適用に向け、積極的に研修会等に参加した。また、資産調査を含め企業会計システムの導入に向けた業務委託を行った。
- ・不明水対策については、管きよ更生工法が比較的施工実績は多いものの、施工単価が高いため、より経済的に施工できないか管きよ補修工法の検討を行った。

■ 評価

- ・普及啓発活動を行いまた、農業集落家庭排水事業地区を公共下水道地区へ編入したことで、水洗化率が4.4%向上した。
- ・マンホール調査を行ったことから、不良箇所の特定と管きよ調査箇所の選定ができた。
- ・公営企業法適用を令和5年度に向けた準備ができた。
- ・不明水対策については、施工方法の検討が長引いたことから、工事着手には至らなかった。

事業別経営計画書【A】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	09
事業名	公共下水道整備事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	(2)	生活基盤
目的	公衆衛生の向上に寄与し、併せて公共用水域の水質の保全に資するために、計画的な下水道の整備を行う。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道管渠の設計並びに工事 ・下水道整備後の道路舗装本復旧工事 	<ul style="list-style-type: none"> ・汚水公共ます、取付管布設工事 ・五条川左・右岸流域下水道建設事業負担金 	
現在における経過又は課題	<p>○平成 26 年 1 月に国から示された「持続的な汚水処理システム構築に向けた都道府県構想策定マニュアル」により、今後 6 年で下水道整備を概成するよう求められており、計画的に整備を行う必要がある。</p> <p>○国道 41 号の 6 車線化に伴い、占用物件である下水道施設の支障移転工事が必要である。</p> <p>○農業集落排水施設の公共下水道(右岸)への接続について、事前協議が整ったので引き続き必要な事務、準備を進めるとともに県の流域幹線への接続工事を施工する。</p>		
平成 31 年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 年概成に向け、竹田地区において下水道管敷設工事を施工する。 ・ 国道 41 号 6 車線化に伴う支障移転工事を行う。 ・ 農業集落排水施設の公共下水道(右岸)への接続工事を平成 30 年度に引き続き施工する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	竹田地区の一部下水道工事
5	農業集落排水施設の公共下水道（右岸）への接続工事 舗装復旧工事
随時	汚水公共ます、取付管工事

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・右岸の市街化調整区域内集落（竹田の一部）を整備する。 ・農業集落排水施設の公共下水道（右岸）への接続に関する事務手続き、工事を実施する。 							
年月日 （実績）	右岸		左岸		合計			行政 人口 （人）
	整備面積 累積（ha）	整備人口 （人）	整備面積 累積（ha）	整備人口 （人）	整備面積 累積（ha）	整備人口 （人）	普及率 （%）	
27.4.1	263.3	13,430	276.9	5,654	540.2	19,084	82.0	23,260
28.4.1	263.3	13,618	276.9	5,669	540.2	19,287	82.2	23,470
29.4.1	265.3	13,929	276.9	5,664	542.2	19,593	82.5	23,757
30.4.1	269.9	15,201	276.9	5,664	546.8	20,870	87.1	23,959
31.4.1	282.3	15,360	276.9	5,696	559.2	21,056	87.2	24,149

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H32年度	<ul style="list-style-type: none"> ・竹田地区下水道管渠布設工事
H33年度	<ul style="list-style-type: none"> ・竹田地区下水道管渠布設工事 ・竹田地区（2期）測量設計

■事業コスト

		単位	H29 年度決算額	H30 年度当初予算額	H31 年度計画額
事業費		千円	245,130	467,698	429,111
(内特定財源)		千円		340,259	318,600
人工	職員	人工	1.4	1.1	1.8
	臨時職員	人工	0.1	0.2	0.0
	計	人工	1.5	1.3	1.8

■平成 31 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
下水道受益者負担金	26,000	工事請負費
社会資本整備総合交付金	125,000	工事請負費
下水道使用料	40,000	工事請負費
公共下水道事業債	120,000	工事請負費
流域下水道事業債	7,600	流域下水道建設負担金
合計	318,600	

■平成 31 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 10 年概成に向け、竹田地区において下水道管敷設工事を行った。
- ・ 農業集落排水施設の公共下水道（右岸）への接続工事を平成 30 年度に引き続き施工した。

■ 評価

- ・ 計画通りに竹田地区の下水道管敷設工事を行い、整備区域の拡大ができた。
- ・ 農業集落家庭排水区域を公共下水道（右岸）区域へ編入することができた。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	産業建設部 建設課	No.	10
事業名	農業集落家庭排水事業		
総合計画の体系	基本目標	3	災害や犯罪に強く豊かな生活基盤を創造する
	基本施策	(2)	生活基盤
目的	農村地域における資源循環の促進を図りつつ、農業用水の水質保全、農業用水施設の機能維持又は農村の生活環境の改善を図る。併せて、公共用水域の水質保全に寄与するため、農業集落におけるし尿、生活雑排水などの汚水を処理する施設、汚泥、処理水の循環利用を目的とした施設等の整備又は改築を行い、生産性の高い農業の実現、活力ある農村社会の形成及び循環型社会の構築に資する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方公営企業決算状況調査作成 ・ 消費税申告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設維持修繕 ・ 新規接続工事 	
現在における経過又は課題	<p>○昭和 58 年度に事業着手し、平成 3 年度の大口クリーンセンターの供用開始を挟み平成 4 年度に工事完了、平成 5 年 4 月 1 日に全域供用開始した。供用後 25 年以上を経過していることから、大口クリーンセンターについては、全面的な設備更新が必要になってきており、平成 32 年度に五条川右岸処理区への編入を目指し、手続きが終了した。農集区域を公共下水道に接続するにあたり、不明水量を減らす必要があることから、平成 27 年度から埋設深が大きい区間のマンホール、及び管口の調査、修繕工事を行っている。</p> <p>○公共下水道に接続するまでは、必要最低限の機械設備等の更新を行う。</p> <p>○汚水処理施設（大口クリーンセンター）が不要となるため、跡地利用等の財産処分方針について国と協議し、補助金返還が不要となる条件で財産処分の申請は、完了した。</p>		
平成 31 年度の目標又は改善策	<p>○平成 32 年 4 月の公共下水道への編入に向けて、引き続きマンホール管口及び管渠の不明水調査、補修を行う。</p> <p>○マンホールポンプについては、編入後も使用するため適正な維持管理を続ける。大口クリーンセンターについては、脱水機のろ布交換等必要最小限度の整備を行う。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
5	不明水調査発注
6	不明水箇所補修工事発注
	地方公営企業決算状況調査作成
9	消費税申告
随時	大口クリーンセンター及びマンホールポンプ保守管理 使用料徴収事務 新規接続にかかる取付管、公共ます設置工事

□3年間の目標

項目（単位）	H29 計画	H29 実績	H30 計画	H31 目標	H32 目標	H33 目標
目標	・ ・					

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H32 年度	・ ・
H33 年度	・ ・

■事業コスト

		単位	H29 年度決算額	H30 年度当初予算額	H31 年度計画額
事業費		千円	16,870	22,711	21,285
(内特定財源)		千円	13,053	11,901	12,001
人工	職員	人工	0.7	0.5	0.5
	臨時職員	人工	0.1	0.2	0.2
	計	人工	0.8	0.7	0.7

■平成 31 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
農業集落家庭排水分担金	1	維持管理事業
農業集落家庭排水使用料	12,000	維持管理事業
合計	12,001	

■平成 31 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

平成 32 年 4 月に五条川右岸流域水道に編入。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 下水道管きよ及びマンホールポンプ施設について、適正な維持管理を行った。
- ・ 大口クリーンセンター施設について、適正な維持管理を行った。

■ 評価

- ・ 管きよの閉塞、ポンプの停止等大きな故障は無く、排水について支障となることは、無かった。
- ・ 大口クリーンセンターでの汚水処理に対する機器等の故障もなく、水質基準に適合した処理ができた。